

平成28年度・応用生物科学部・研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○ 特別選抜入試のミスを防止するために作成した実施マニュアルを見直し、改訂した。 ○ 大学院応用生物科学研究科の英語による特別教育プログラム（平成26年度設置）において新たに5名（中国、インドネシア）の外国人留学生及び向学心の高い成績優秀な学部卒業生1名を受け入れた。 ○ 学部の入学者数は入学定員の1.03倍であり適正な数である。	特別選抜入試マニュアル（改訂版） 資料1 平成28年度入学者選抜概況 資料2	応用生物科学部・研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	単位の実質化を図るための取組 ○ 前年度に実施した初年次セミナーの検証を踏まえて、基盤的能力涵養の効果を高めるため、レポート課題の内容の修正を図り、レポートの作成法の教授やポイントの明確化を図った。 ○ 大学院自然科学技術研究科の新たな設置に向けて、社会ニーズに呼応した高度職業人養成教育を深化させるため、共通教育としてデザイン教育が策定された。	本学部・研究科シンポジウム資料（H29.2.24） 機構FD資料（H29.3.23） 資料3 新研究科・デザイン教育実施案	
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がった取組 ○ 学生による授業評価（5段階評価）が平均で前期4.11、後期4.14と高い評価である4以上を保持している。 ○ 卒業及び修了時の意識調査より、満足度がそれぞれ89.0%及び89.1%と高い値であった。このことから、本学部・研究科で学んだことにより、一定の学習成果を挙げていると学生自身が自己評価していると考えられた。	授業評価結果 資料4 卒業・修了時調査結果 資料5	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○ 今年度のシラバスに記載した内容及び成績評価について教員に検証を要請し、教員112人中3人の次年度のシラバスが改善されることとなった。リフレクションペーパーの作成により各教員に教育の工夫や改善を促した結果、198科目中151科目（77%）で今年度改善した内容が、さらに次年度に向けての改善計画が93科目（62%）で提出された。 ○ 第三者教育評価委員会において、応用生命科学課程、生産環境科学課程の3教育ポリシーを含む教育状況について、評価ワークシートを用いて評価した。教育状況とともに、良好な点と改善が必要と考える点をまとめ答申とし、教育改善室長（学部長）に提出した。次年度、この評価結果をもとに改善を図る計画である。	シラバスの点検結果資料 資料6 リフレクションペーパー結果一覧 資料7 教育評価答申書（応用生命、生産環境）	

平成28年度・応用生物科学部・研究科における教育改革（基準4、5、6、8関係分）

基準4 学生の受入

入学試験委員会／課程・学科

- ◎ 特別選抜入試チェックリスト・実施マニュアルの見直し・改訂
→ミスの防止、安定的な実施、公平・公正性の担保
- ◎ 平成29年度入学者195名／定員190名（定員充足率102.6%）

大学院委員会

- ◎ 特別教育P（外国人・日本人混在型、英語秋季入学）
→私費外国人留学生5名受入

基準6 学習成果

自己点検評価委員会

- ◎ 学生による授業評価の学部内公表（H22～）
→平均4.11（H28前期）、4.14（H28後期）
→学習効果の高さ保持
- ◎ 卒業（修了）時アンケート
満足度89%（学部）、89%（研究科）

室長：学部長
室員：副学部長、事務長、事務長補佐

教育改善室



応用生物科学部・研究科
教育シンポジウム（H29.2.24）
「自然科学技術研究科の発足と
応用生物科学部の活動・今後の方向性」

- ◎ 学部・研究科内：議論、情報共有
- ◎ 学部に公開：議論深化、外部評価

基準5 教育内容及び方法

初年次教育WG

- ◎ 初年次セミナーの組織的实施→検証→H29改善案の策定
* 全学FD（H29.3.23）・学部シンポジウムで紹介

大学院委員会

- ◎ 新研究科「自然科学技術研究科」設置計画
→実践的高度職業人教育＝デザイン教育
→実施計画策定

- ◎ シラバスの自己点検（内容・成績評価）
→シラバス通り96%、残り4%の改善対応の確認

基準8 教育の内部保証システム

第三者教育評価委員会

- ◎ 応用生命科学課程・生産環境科学課程
→第三者教育評価（客観的評価）
→答申（3月）→改善（H29）

大学院委員会

- ◎ TA研修：ガイダンスの実施
（実習・演習／初年次セミナー等）